



壁面モザイクー岡本太郎《創生》 床面デザインー坂倉準三
日本橋高島屋地下通路（東京、1952年／現存せず）

「アートと、社会と、デザインと、」
vol.2 岡本太郎、草間彌生、村上隆に見る、
アートとデザインの
接地面

日時：2020年1月25日（土） 17:00-19:00

定員：20名（予約制）

参加費：1,000円

講師：伊村靖子（情報科学芸術大学院大学（IAMAS）講師）

会場：GALLERY CAPTION（岐阜市玉姓町3-12 / tel 058-265-2336）

「生活の芸術化」を掲げたのは、ウィリアム・モリスをはじめとする先人たちです。技術と社会の関係が変わろうとする時、総合芸術やトータル・デザインについての議論がさかんになります。誰のための芸術か、日常の中の芸術とは何かという鋭い問いが、時代の切断面として立ち現れるのです。絵画や彫刻にとどまらず、日用品や家具、建築を通して都市の中に芸術が流通していったのも決して偶然ではないでしょう。

このような作家の例として、岡本太郎（1911-1996）、草間彌生（1929-）、村上隆（1962-）が挙げられるのではないのでしょうか。岡本太郎は、マスメディアの中の芸術家像を生み出し、草間彌生は、絵画を超えてマグカップや家具などに水玉を展開させ、世界を覆い尽くす方法を見出しました。村上隆は、「スーパーフラット」を提唱し、芸術の制度を脱構築した新たな美学を打ち立てています。彼らの活動を切り口として、アートとデザインの接地面にある批評精神を探ります。

伊村靖子

伊村靖子（いむらやすこ / 情報科学芸術大学院大学（IAMAS）講師）

国立新美術館アンソニエイトフェローを経て、2016年より現職。近年は、美術とデザインの関係性に関心を持つ。共編に『虚像の時代 東野芳明美術批評選』（河出書房新社、2013年）。論文に「『色彩と空間』展から大阪万博まで——六〇年代美術とデザインの接地面」（『美術フォーラム21』第30号、2014年）など。関わった展覧会に「美術と印刷物——1960-70年代を中心に」展（東京国立近代美術館、2014年）、岐阜おおがきビエンナーレ2017「新しい時代 メディア・アート研究事始め」（IAMAS、2017年）など。

お申込み方法：お電話、e-mail、facebookより受け付けます。

tel 058-265-2336（水～日 12:00-18:30・冬期休廊 12/28-1/14）

e-mail caption@mbe.nifty.com